

## 実践報告資料

研究テーマ『未来に向かい今をたくましく生きる子どもの育成 ～自らをみつめ仲間と協働する授業の構築～』  
 研究内容【(1)、(2)、(3)、(4)】

学校名 (明石市立大観小学校)

### ア 人権教育としてのねらい

児童の自尊感情・自己肯定感を高めるとともに、他者の多様な見方や考え方を受容し合いながら、公正公平な態度で合意形成を図り、共により良い社会を構築しようとする意思をもった人間関係を築こうとする態度を育てる。

### イ 研究の概要

今日的人権課題を前に、「誰もが暮らしやすい社会づくり」のために、児童が課題解決を図る授業展開を構想する。そのためには、人権諸課題を自分ごととして捉える態度や、仲間と協働して多面的・多角的に物事を分析・整理し、解決につながる見通しをもつ力や、学び方や習慣を養うことが重要と考える。

そこで、本校では4領域を通して、国際的な人権課題（戦争と平和）、LGBTQ+（多様な性と社会の在り方）、ネットモラル啓発（情報活用能力の育成）、高齢者と地域がつながる暮らしやすいまちづくりを核とした単元構想を行い、主体的に人権諸課題を解決しようとする児童を育てていく。

領域	教科	道徳 (特別の教科 道徳)	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	6年担任 推進教員	人権担当 推進教員	児童会担当 全教職員	4年担任 推進教員
実施日	1月	11・12月	4月～3月(通年)	4月～3月(通年)
取組名	世界の中の日本 (社会科)	「ありのまま」が「あたりまえ」の社会へ ～自分らしく生きる～	児童会活動 ～ネットモラルと仲間～	発進！発信！ 大観のまち守り隊！ ～お年寄りの力になろう～
目標	世界の国々で起きている課題に正対し、自分にできることは何かを考え具体案を基に実践することができる。	多様な性があることを認知するとともに、課題解決に向けて改善策を考え道徳的実践力を高めることができる。	誰もが居心地の良い場を保障するために、SNSの正しい活用について児童会を中心に考え、全校生に啓発を図ることができる。	地域を見守る高齢者と関わる中で、高齢者の困りごとに着目し、まちの一員として自分たちにできることを見つけて行動することができる。
資料名	新聞記事 教科書、資料集ほか	明石市政策局 SDGs 推進室関連資料、新聞記事	明石市ネット三ヶ条(明石市教育委員会・兵庫県立大学)	
指導内容や指導方法の工夫等	日本の企業が日本国民全体に対して協力を呼びかけ対象国に支援をしている事例から、難民問題対策の存在について気付かせる。 難民問題の原因となる、国と国との戦争で失うものの多さや大きさに気づき、人々が安心して暮らせる社会を実現するためにはどのような工夫が必要かを議論する。 議論したことを通して、世界の発展に寄与する日本人の一例を教科書から学び、自分にできること(これからしたいこと)を考え実践する。	社会には「男性」や「女性」という固定概念がある一方で、実際には多様な性が存在することに気付かせる。 多様な性が存在する中で、それらが社会の制度上で認知されずに苦しんでいる人々の思いに気付かせる。 そうした人々の思いを受け、差別を無くすために自分たちにできることは何かを考え議論することを通して道徳性を養い、道徳的意欲を醸成する。	昨年度、大観小学校のネットモラルの向上をめざした取組である「大観こ(個人情報保護)あ(相手の人権尊重)じ(使用時間遵守)宣言」にちなんだ標語を制定後、普及活動に励んだ。しかし、全国的にも依然SNSの利活用に伴うトラブルがあることを踏まえ、改善案を考える。 具体的な対策を講じた「改 大観こあじ宣言」を基に、全校児童へ啓発し、居心地の良い人間関係づくりに向けた取組を実践する。	「まちに住む高齢者の暮らしを助ける取組」を探究課題に、登下校を見守っているスクールガードとの関わりを通して、まちに住む高齢者の困りごとや、まちを大切にしたいという願いに共感し、人と人が助け合う意識を高めさせる。 そのために、校区の安全探索をして危険箇所を把握し、児童や地域の安全保守を担うスクールガードの存在について知識を得る。スクールガードのインタビューを通して課題を把握させ、課題解決に向けた取組を実践する。